

## 第3回 道連理事会報告

10月5日道連第3回理事会が開催されました。麻田会長からヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会結成総会の意義についての開会挨拶の後、小松理事が議長に就任しました。

平専務理事から①2017年度経理担当者研修・交流会開催に関する件②NPO さいたまユースサポートネット視察計画の件③JA 北海道中央会からの要請の件④次回理事会運営の件（拡大役員学習会及び役員懇親会）の議決事項が提案され承認されました。川原事務局長から①LPガス問題の取り組み（今後の展開にむけて）②こども食堂（北海道ネットワーク）の取り組みと今後について③ヒバクシャ国際署名についての報告と審議事項が提案され承認されました。平専務理事から①一般活動経過報告②2017年度上期決算報告

③10月23・24日北海道の連合会検査対応について④労福協「政策・制度要求運動」への進捗に関し報告がなされ、川原事務局長から⑤まる元取り組み「まる元サミット」開催について⑥協同組合間協同の取り組み推進報告⑦異世代ホームシェア学習会開催報告⑧消費者フォーラム開催について⑨札幌弁護士会からの「カジノ解禁推進法」の廃止を求める団体署名申し入れについて⑩北海道他報告がありました。山崎（日生協地連）事務局員から北海道・東北地連運営委員会の報告があり、九州北部被害募金に2億円の募金が寄せられ、お届けしたことが報告されました。最後に白井（日生協北海道支所）支所長から北海道の商品事業の進捗について報告がありました。

## ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会結成総会

9月26日(火)10時30分エルプラザにて、代表呼びかけ人真田保被爆者協会会長、北海道生協連麻田会長、元連合北海道高柳会長、弁護士高崎暢氏、消費者協会橋本智子会長代理矢島専務含む5名と団体代表54名事務局7名 計72名が参加し、結成総会を行いました。当日はTV局NHK,HBCの2社、新聞は道新・毎日・赤旗3社が取材、当日のニュースにて2度程放映、記事での掲載がありました。真田保北海道協会被爆者協会会長、北海道生協連麻田会長による呼びかけ人のあいさつと、特別報告「核禁止条約交渉会議・ニューヨーク行動に参加して」の長谷聡子さん（北海道商工団体連合会）のお話を受け、道民の会の結成の経過と会の目標、財政などの報告を北明被爆者協会事務局次長が行いました。参加者から、新婦人鈴木事務局長、北広島原水協佐藤理事長、コープさっぽろ組合員活動部佐藤部長、連合北海道皆川運動局長の発言、結成総会アピール発表と平和運動フォーラムからのメッセージを発表し閉会しました。

今回は、広範な賛同を実現するために、様々な著名人に呼びかけ、受諾いただいたことは大きな成果であり、原水協、被爆者協会、平和運動フォーラムと北海道生協連による事務局4団体の地道な共同により、当

日、労組含め多くの市民団体・個人が参加頂きました。

街頭署名は大通西3丁目で30余名の参加で行い169筆の署名が集まりました。募金も16000円集まりました。今後、呼びかけ人ポスター・リーフレットの普及にて各団体及び個人にまで広がっていきます。尚、署名用紙は統一署名用紙を作成しましたが、各団体の書式でもかまわないことで進めます。今後、ホームページの開設にて及び署名数・活動報告を掲載、募金口座の案内含め広がっていきます。ポスター・リーフレットは必要部数をお申し出により送ります。ぜひ、この会へのご入会と署名推進のご協力お願い申し上げます。





# 第1回「まる元」全道サミット報告



10月6日、ホテルポールスター札幌で「第1回「まる元」全道サミット」が開催されました。当日は道庁を含む自治体関係47名、生協関係24名、北翔大4名、労働金庫4名、札幌信用金庫1名、NPO14名など総勢95名の参加で行われました。

第1部で課長ラウンドテーブルが、実施21市町村のうち12の市町村の参加で行われました。テーマは「介護予防事業の中で『まる元』をどう活かすか」で「まる元」にかかる費用は非常に有利な補助制度を使えること、「まる元」で元気になった人の卒業問題、保健師不足、参加者の移送問題などの悩みなどが議論されました。第2部で実務担当者ラウンドテーブルは、16市町村の参加で行われました。テーマは「『まる元』を導入した現場の悩み、課題、工夫、アイデア、連帯の可能性を語り合う」で、「まる元」で参加者が間

違いなく元気になっていることや、元気になった方がサロンや老人クラブなどで「ゆる元」の指導者として活躍していくという夢を語る方もいらっしゃいましたが、楽しそうに通っている方に卒業を切り出すのは難しいという思いも語られました。

相内理事長のまとめと提言としては、「まる元」は単なる体力向上のプログラムではなく笑いや交流、心と身体の元気を生み出す場である。MCI（軽度認知障害）の方が大勢いるという現実からすると自治体の中でも教育委員会等の横の協力や農協との協力も必要となるし、NPOはその力になっていきたいというものでした。

その後、情報交換会も開かれ、名刺交換やお話で盛り上がり、顔の見えるお付き合いのスタートの場となりました。



## 世代間ホームシェア学習会開催される！

本年度の研究課題でもある「ホームシェア」について9月16日(土)江別市民会館にて大学生15名、地域住民10名、教員4名、計29名の参加の下、学習会が開催されました。冒頭の基調講演では「日本大学文理学部准教授、日本ホームシェア会議座長の久保田先生」より、世界、そして日本に於けるホームシェア問題の実際と提言、「情報大学准教授 藤本先生」からは江別市内に於ける高齢化進行の実態について報告がさ

れ、参加者一同、ホームシェアへの理解と課題を深める学習会となりました。



こども食堂  
北海道ネットワーク

## 第2回学習交流会開催報告

9月25日に開催された同交流会は運営者27人、支援組織・個人16名、計43名参加の下、以下の様な学びと意見交換が行われました。

### 厳しい子ども目線を学ぶ！

交流会第1部では南区にある自然体験型幼稚園で子ども達との接点を持つ「豊澤義弘」氏による「子ども達と一緒にいて感じる事・考える事」への問題意識をお聴きし、こども食堂を運営する際に留意する点や思いについて具体的事例に基づき共有、交感がされました。子供目線の「厳しさ」をしっかりと受け止め、信頼に足る「大人」としての「行動」の難しさについて改めて参加者一同、考えるきっかけになる講演となりました。

### 思いを繋ぐ！積極的意見交換へ！

第2部「交流会」では「場所」「食中毒リスク」「保険問題」「支援者サイドから見たありがたいガイドライン」等々、大変重要な問題が議論されました。「こども食堂北海道ネットワーク」が果たすべき目的、具体的役割、課題について双方の意見や意向が率直に話される機会となりました。とりわけ「ガイドライン」問

題への提言、「余剰生産物」への理解問題、調理現場での食中毒啓発工夫の提言等々、運営者にとっては目から鱗ではありませんが貴重な「再確認」の機会になったものと思われまます。

### 情報共有ツールを確認！

運営者や支援組織の参加も増えておりますが、条件的に参加できない運営団体、その他の皆さんへの情報発信として、「道内こども食堂実勢表」「こども食堂北海道ネットワークへの参加団体及び支援参加団体実勢」が報告され、加えて今後の会運営を豊かにしていくブログ活用(こども食堂北海道ネットワークで検索)への協力とお願い、第3回学習交流会(12月5日



火曜)の案内が行われ、まだまだ話し足りない参加者もおられた様ですが第2回学習交流会が終了となりました。